

令和5年度

山形県公立高等学校入学者
選抜学力検査成績概況

令和5年5月

山形県教育委員会

<目 次>

国 語

1 結果の考察	1
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント)	1
問題別正答率 (%)	2

社 会

1 結果の考察	3
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント)	3
問題別正答率 (%)	4

数 学

1 結果の考察	5
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント)	5
問題別正答率 (%)	6

理 科

1 結果の考察	7
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント)	7
問題別正答率 (%)	8

英 語

1 結果の考察	9
2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント)	9
問題別正答率 (%)	10

資 料

令和5年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

(入学定員・入学志願者等の数・合格者等の数等)

1 年度別比較	11
2 課程別・学科別	12
3 推薦入学者選抜実施状況	13

国語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

㊦の問四は、登場人物の設定の仕方について、描写を基に捉える力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、「読むこと」の力が身に付いていることがうかがわれる。登場人物の人物像や相互関係を捉え、文章の内容をより深く理解することを心掛けたい。㊦の問二は、資料を活用して話す力をみる問題だが、正答率が約8割であり、学習の成果がみえる。話し言葉の特徴や、視覚に訴えることの効果などを踏まえ、どのような資料をどのように用いればよいのかを考えることを大切にしたい。㊦の作文は、標語に表れているものの見方や考え方を踏まえて、経験や知識と結び付けながら自分の考えを表現する力をみる問題である。7割を超える受検者が9点以上得点しており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校から「体験や見聞きしたことが具体的に述べられていない」との報告が寄せられている。考えや意見の根拠となることを具体的に記述するなど、自分の考えがよりよく伝わる文章になるように工夫することが大切である。

(2) 課題がみえる問題

㊦の問二は、品詞についての基礎的な知識・技能をみる問題だが、正答率は4割を下回り、課題がみえる。それぞれの単語のもつ文法的な役割とともに、それぞれの品詞が文のどのような成分になるかを理解する学習を心掛けたい。㊦の問六は、論理の展開を捉えた上で、叙述を基に要旨を把握する力をみる問題である。部分点を含め正答率が約6割であるが、高等学校から「言葉のもつ二面性について読み取った上で、内容を説明できていない」という報告が寄せられている。説明的な文章を読むときには、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を押さえたりしながら、大きな意味のまとまりごとに文章全体における役割を捉える学習に取り組むたい。㊦の問二及び問四は、登場人物の心情の変化について、描写を基に捉える力をみる問題だが、正答率が伸びなかった。登場人物の心情の変化や言動の意味を考えることを通して、古典に表れたものの見方や考え方を学ぶ学習を大切にしたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 国語で正確に理解し、適切に表現することができる

基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図りながら、国語で表現された内容や事柄を正確に理解することや、国語を使って内容や事柄を適切に表現することができる。

(2) 自ら進んで読書に取り組むことができる

知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、図書館を活用するなどして、自ら進んで読書に取り組み、集めた情報を活用することができる。

(3) 授業者は、目指す資質・能力の確実な育成に向けた授業計画と評価の工夫を

授業者は、各単元で育成する資質・能力を適切に位置付けた年間指導計画を作成するとともに、言葉による見方・考え方を働かせて深い学びを実現する学習過程を大切に、資質・能力の育成に適した言語活動の充実を図りたい。その上で、資質・能力が身に付いたかどうかを適切な評価規準に基づいて評価し、指導の改善につなげたい。

問 二	3 6 4 2 3 3 2 2 2										27
問 七	問 六 例	問 五 例 II	問 四	問 三	問 二	問 一 b	問 一 a	問 一		問 一	
								エ	ア		イ
備考		69.7	75.6	38.7	100.0	97.1	48.7				
完 解		11.8	64.3	87.8	40.8	16.0	9.7				
50~99%		33.2									
1~49%		14.3									

問 一	2 2 5 4 2 3 3 2 2 2										27
問 七	問 六 例	問 五 例 II	問 四	問 三	問 二	問 一 b	問 一 a	問 一		問 一	
								カ	ウ		エ
備考		55.9	80.7	84.0	84.9	98.7	99.2				
完 解		40.8	65.5	78.2	84.0	93.7	98.7				
50~99%		16.0									
1~49%		9.7									

(注意) この採点基準によって処理したい細部については、各学校で適正な基準を設けること

(1) 内容	(2) 構想・叙述	(3) 書写・表記	3	6	9	18
A B C D	A B C D	A B C D	A B C	A B C D	A B C D	
A B C D	A B C D	A B C D	A B C	A B C D	A B C D	

【評価の観点】

(1) 内容

- AとBの標語それぞれについて、読み取ったことが、明確に述べられているか。
- 「学んだことをどのように生かすか」という題に即して、自身の体験や見聞きしたことを踏まえ、自分の考えを深めているか。
- 第二段落で述べられている内容が、第一段落で述べられている内容を踏まえたものになっているか。

(2) 構想・叙述

- 二段落で構成されており、二〇〇字以上二四〇字以内で書かれてあるか。
- 第一段落には、AとBの標語それぞれについて、読み取ったことが述べられ、第二段落には、自分の考えが、自身の体験や見聞きしたことを含めて述べられているか。
- 文章の組み立てや展開が適切で、叙述の仕方が的確であるか。

(3) 書写・表記

- 文字が正しく、表記や語句の用法が適切であるか。
- 字形や大きさ、配列など、文字が整っているか。

14点~18点	39.9
9点~13点	36.6
5点~8点	18.9
1点~4点	3.8

3 2 2 2 2 2 2							15
問 二	問 一	問 一	問 一	問 一	問 一	問 一	問 一
ウ	エ	雑	統	改	垂	額	
		誌	計	革	らす		
81.9		79.8	81.5	58.8	84.0	84.5	82.8

4 4 3 2				13
問 四 例	問 三 例	問 二	問 一	問 一
44.5		55.0	95.4	84.0
備考		平和に治まっている時代。		

問 三	備考
問 四	備考

問三 本文に即した内容であること。「戦乱が起こることがない時代」などでもよい。

問四 本文に即した内容であること。

社 会

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の1は、大陸と海洋の分布についての基礎的な知識をみる問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。地球儀や世界全図などを活用して、六大陸と三大洋の大まかな形状と位置関係を捉える学習が十分に行われていることがうかがわれる。②の2(2)は、日本の資源・エネルギー利用に関連する基礎的な知識をみる問題だが、正答率が9割を超えており、学習の成果がみえる。持続可能な社会の形成に向けて、新しい資源・エネルギーの開発やその利用について、関心が高いことがうかがわれる。②の3(2)は、地形図から、必要な情報を読み取る力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。授業において、地形図や主題図などの様々な資料から、必要な情報を的確に読み取る技能の習得が図られていることがうかがわれる。④の4は、歴史に関わる事象の意味や意義を説明する力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。時代の転換の様子や各時代の特色を考察する学習が十分に行われていることがうかがわれる。

(2) 課題がみえる問題

②の2(1)は、日本の諸地域の産業について、資料を読み取り、思考・判断する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。様々な資料を活用して日本の諸地域の地域的特色を捉える学習を大切にしたい。③の1(1)は、年代の表し方を問う問題だが、正答率が低く、課題がみえる。高等学校からは「世紀の定義に関する不正確な認識が目立つ」との報告が寄せられている。歴史的分野の学習を通じて、年代の表し方や時代区分の意味や意義について、確実に理解し身に付けることが大切である。⑥の1(1)は、現代の社会的事象について、資料を基に、思考・判断する力を問う問題だが、正答率が低く、課題がみえる。経済に関する様々な事象や課題を捉え、考察する際には、効率と公正、希少性などの概念的な枠組みに着目したり関連付けたりすることを心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 身近な社会的事象について説明したり議論したりすることができる

身に付けた基礎的な知識を活用して、社会的事象の意味・意義や特色、事象間の相互の関連を説明したり議論したりすることができる。

(2) 多面的・多角的に考察する学習に主体的に取り組み、学習の振り返りができる

持続可能な社会を築いていくために解決すべき課題について多面的・多角的に考察し、構想（選択・判断）することができる。学習の振り返りを行うことで、自分の学びや変容を自覚し、次の学びにつなげることができる。

(3) 授業者は、学習過程を工夫し、深い学びの実現を

授業者は、単元を貫く課題（問い）を設定し、生徒と課題（問い）を共有したい。また、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を育成するため、考察、構想（選択・判断）したことを、根拠や理由を明確にして説明・議論する場を充実させたい。さらに、社会的な見方・考え方を働かせるための働きかけ（発問、問い返し等）を工夫して、社会科としての本質に迫る深い学びを実現させたい。

11		18		1		
2	1	記号 エ	海洋名 太平洋	84.5		
2	2	(1)	イ	59.7		
2		(2)	記号 D 国 国名 タイ	30.7		
2	3		キ	59.7		
2	4	a	ア	b	オ	68.5
3	5	(例) スペインの植民地		34.5		
2	6	(1)	二期作	74.4		
3		d	高い		73.9	
	e	(例) 消費に向けられる割合が低い				

問	備考
1	1 記号と海洋名が両方できて正答とする。 2(2) 記号と国名が両方できて正答とする。 4 aとbが両方できて正答とする。 6(2) dとeが両方できて正答とする。eは「消費」「割合」が用いられていること。
2	2(1) 記号と県名が両方できて正答とする。
3	1(1) 全部できて正答とする。 2(1) 順序は問わない。両方できて正答とする。 4(2) 「往復」が用いられていること。

2		17		
1	(1)	ア	83.2	3
	(2)	日本アルプス	90.3	2
2	(1)	記号 オ 県名 栃木 県	16.8	3
	(2)	ウ	94.1	3
3	(1)	イ	56.7	3
	(2)	(例) 等高線の間隔がせまく、傾斜が急である		3
			80.3	

3		18		
1	(1)	201 年から 300 年まで	46.6	2
	(2)	ウ	77.7	2
2	(1)	ウ カ	29.4	3
	(2)	桓武天皇	48.7	2
3	(例) お金を貸しつけること。		36.1	3
4	(1)	ア	38.2	3
	(2)	(例) 一年おきに江戸と領地を往復すること。		3
			59.2	

4		17		4	
2	1	殖産興業	60.9		
3	2	エ	51.3		
2	3	イ	85.7		
3	4	(例) 25歳以上の男子		82.4	
2	5	教育基本法		62.6	
3	6	イ → ウ → エ → ア	39.1		
2	7	パリ協定		43.3	

問	備考
4	6 全部できて正答とする。
6	1(2) 「競争」「購入」が用いられていること。

5		15		
1	(1)	内閣	81.1	2
	(2)	委員会	58.4	2
	(3)	(例) 衆議院が先に審議する		3
2	(1)	控訴	66.4	2
	(2)	カ	48.3	3
3	自己決定権		59.2	3

6		15		
1	(1)	エ	45.8	3
	(2)	(例) 企業どうしの競争が弱まり、極端に高い価格で商品を購入しなければならないこと。		3
			65.5	
2	ウ		73.5	3
3	(1)	社会福祉	54.2	3
	(2)	ア	52.5	3

〔注意〕 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

数 学

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の2は、二次方程式の解を求める力をみる問題だが、正答率が約9割であり、学習の成果がみえる。解の公式を知り、二次方程式を解けるようになるだけでなく、解の公式が導かれる過程を知ることも重視したい。②の1(1)は、反比例の比例定数を求める力をみる問題だが、正答率が高く学習の成果がみえる。関数について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるようにしたい。②の2は、確率を用いて不確定な事象を捉え、説明する力をみる問題だが、受検者の71.2%が5割以上得点しており、学習の成果がみえる。説明する力を付けるために、説明に何を含まればよいかを明らかにすることが大切である。

(2) 課題がみえる問題

②の3(1)は、方程式を活用する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。方程式を活用するに当たっては、その立式の段階が重要である。事象の中の数量や数量の関係を式に表現する力を身に付けたい。③の1(2)は、伴って変わる二つの数量の関係を捉え、考察する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。関数を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する力を身に付けたい。④の1は、三角形の合同条件などを用いて、論理的に証明する力をみる問題だが、5割以上得点した受検者は全体の18.9%であり、課題がみえる。結論に至るまでの過程を、論理的に考察し表現する力を身に付けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 学習したことを活用するために、数学的活動に主体的に取り組むことができる

授業での数学的活動を通して、基礎的・基本的な内容について実感を伴って理解した上で、一人一人が結果を予測したり、既習内容とのつながりを考えたりすることができる。

(2) 授業以外の日常生活の様々な場面で、学習したことを活用することができる

授業の中だけでなく、日常生活の様々な場面でも、学習したことを積極的に活用して考えたり判断したりすることができる。

(3) 授業者は、生徒が自立的、協働的に問題解決するための工夫を

数や式、図、表、グラフ等に関連付けながら、事象を論理的に考察し表現する活動を通して、説明する力や記述する力を養いたい。また、生徒が自分の考えを補ったり、再構築したりする場や、問題解決の過程や結果を踏まえて、統合的・発展的に考察する機会を大切にしたい。

32		1	
3	(1)	4	93.4
4	(2)	$-\frac{1}{10}$	88.9
4	(3)	$-18a$	75.7
4	(4)	$1-\sqrt{7}$	78.2
5	2	$(x-7)(x+2)=-9x-13$ (例) $x^2+2x-7x-14=-9x-13$ $x^2+4x-1=0$ $x = \frac{-4 \pm \sqrt{4^2 - 4 \times 1 \times (-1)}}{2 \times 1}$ $= \frac{-4 \pm \sqrt{20}}{2}$ $= \frac{-4 \pm 2\sqrt{5}}{2}$ $= -2 \pm \sqrt{5}$	88.5
4	3	答 $x = -2 \pm \sqrt{5}$	25
4	4		75.7
4	5		エ 47.3
4	5		イ 55.1

29		2	
4	(1)	6	74.5
4	(2)	$\frac{2}{7} \leq b \leq 2$	25.9
6	2	記号 イ <理由> (例) 2個とも白玉が出る確率は、純さんが $\frac{2}{9}$ 、友子さんが $\frac{1}{4}$ であり、友子さんのほうが純さんより大きいから。	100% 51.4 50~99% 19.8 1~49% 11.5
6	3	(例) 商品Aの箱の数を x 箱とする。 $8x+12 \times 10 = 12(40-x-10) + 15 \times 10 - 50$ (例) 商品Aの箱の数を x 箱、商品Bの箱の数を y 箱とする。 $\begin{cases} x+y+10=40 \\ 8x+12 \times 10=12y+15 \times 10-50 \end{cases}$	42.4
4	(2)	256 個	17.7
5	4		79.0

20		3	
3	(1)	1	35.4
3	ア	$y = \frac{1}{4}x^2$	29.6
3	イ	9	70.8
3	ウ	$y = -2x+32$	35.0
4	1	図3 	61.3
4	2	$\frac{20}{3}$	3.3

19		4	
9	1	<証明> (例) $\triangle AGC$ と $\triangle CED$ において 仮定より $AC=CD$ ① $AC \parallel ED$ で、同位角は等しいから $\angle ACG = \angle EDB = 90^\circ$ ② ②より、 $\angle CDE = 90^\circ$ よって、 $\angle ACG = \angle CDE$ ③ $\triangle AFC$ は $\angle AFC = 90^\circ$ の直角三角形だから $\angle CAG = 90^\circ - \angle ACF$ ④ また、 $\angle DCE = \angle ACG - \angle ACF$ $= 90^\circ - \angle ACF$ ⑤ ④、⑤より $\angle CAG = \angle DCE$ ⑥ ①、③、⑥より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので $\triangle AGC \cong \triangle CED$	100% 8.2 50~99% 10.7 1~49% 59.7
5	(1)	$\frac{10}{3}$ cm	29.6
5	(2)	30π cm ³	2.9

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

理 科

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の1(2)、②の2、③の4、⑦の1は、第1分野及び第2分野についての基本的な知識をみる問題であるが、正答率はいずれも8割を超えており、学習の成果がみえる。学習の基礎となる科学的な知識が定着していることがうかがわれる。①の2(2)は、観察・実験の計画を立案する力をみる問題であるが、正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。観察・実験の条件を検討し、的確に判断する力が養われていることがうかがわれる。②の1(2)、⑥の2は、科学的な思考力、判断力、表現力をみる問題であるが、正答率はいずれも約8割であった。今後も、科学的な知識や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実させるように心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

④の5、⑧の1は、観察・実験の結果を処理する力をみる問題であるが、正答率が低く、課題がみえる。得られたデータや資料を、グラフや図などの多様な形式で表すなど、結果を分析して解釈し、適切な判断を行うような学習活動を充実させるように心掛けたい。⑧の4は、理科の学習で得た知識及び技能を活用して、思考し、表現する力をみる問題であるが、正答率が約2割と低く、課題がみえる。身近な現象について、科学的な知識と結び付けて考察するような学習活動を充実させるように心掛けたい。⑦の4は、物体に働く力について、作用・反作用の働きと関連付けて思考し、判断する力をみる問題であるが、正答率が3割を下回った。科学的な原理や法則について、日常生活や社会と関連付けながら、科学的に探究する態度を養いたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 科学的な知識や概念を使用したり、日常生活や社会と関連付けたりできる

自然の事物・現象に関して、科学的な知識や概念を使用して説明したり、日常生活や社会と関連付けて科学的に考察したりすることができる。

(2) 見通しをもって観察・実験を行い、考察したことを科学的に表現できる

観察・実験の目的を自ら考え、根拠のある予想や仮説を立て、結果を見通した計画が立案できる。観察・実験の結果を基に課題に正対した考察を行い、その内容を科学的な概念を使用し、適切に表現することができる。

(3) 授業者は、生徒の興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する指導計画と、指導と評価を一体化させた学習指導の工夫を

授業者は、生徒の興味・関心を高められるような事物・現象を題材にして、探究の過程を効果的に位置付けた指導計画を作成したい。また、指導と評価の一体化を図るため、学習の成立を促すための評価という視点を重視することによって、指導のねらいに応じて生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを大切にしたい。

1		12		1	
	3	1	(1) 器官	73.9	
	3	1	(2) デンプン	86.1	
	3	2	(1) (例) (アジサイの葉が) 二酸化炭素をとり入れている かどうかを調べるため。	58.4	
	3	2	(2) イ	83.2	

3		12	
1	ア、ウ、オ	52.1	3
2	カ	52.5	3
3	(例) 砂は泥よりも速く沈む	43.7	3
4	示相化石	83.6	3

2		13		2	
	2	1	(1) 栄養生殖	62.6	
	3	1	(2) (例) 親の遺伝子をそのまま受けつぐため、形質は親と同じになる。	77.3	
	2	2	DNA	92.9	
	3	3	(1) ア	42.0	
	3	3	(2) オ	50.8	

4		13	
1	大きく	75.6	2
2	ア	18.9	2
3	(例) あたたかく湿っている。	81.1	3
4	秋雨前線	53.4	3
5	ウ	47.5	3

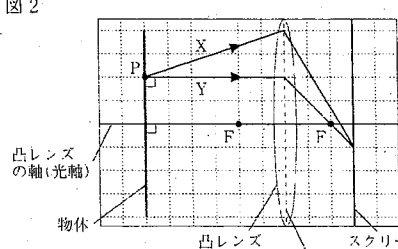
問	備 考
2	「デオキシリボ核酸」でもよい。

問	備 考
3	1 すべてできて正答とする。順序は問わない。
4	3 「高温、湿潤である。」などでもよい。

5		13		5	
	3	1	ウ	50.0	
	3	2	(例) 電流が流れるようにするため。	65.1	
	2	3	(1) 水素	71.0	
	2	3	(2) イ	69.3	
	3	4	165 g	12.2	

7		12	
1	慣性 (の法則)	81.9	3
2	0.5 N	47.9	3
3	イ	42.9	3
4	ア	26.5	3

6		12		6	
	3	1	イ	57.6	
	3	2	エ	80.3	
	3	3	0.28 g	68.5	
	3	4	3.72 g	8.8	

8		13	
1	15 cm	32.8	3
2	エ	79.4	3
3	図2 	64.3	4
4	(例) 像の全体が暗くなった。	21.4	3

〔注意〕この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

英 語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の3のNo.2は、日常的な話題に関するスピーチを聞いて、要点を把握する力をみる問題だったが、9割の正答率であり、学習の成果がみえる。ある程度の情報が入ったまとまりのある英語を、聞いて理解できるようになっていることがうかがわれる。②の1(1)は、正答率が高く、学習の成果がみえる。基本的な言語材料を繰り返し活用することで、学習内容が確実に定着していることがうかがわれる。⑤は、日常的な話題について、英語を読んで得られた情報を活用し、自分の考えを表現する力をみる問題だが、正答率が高く、学習の成果がみえる。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えを形成し、表現できるようになっていることがうかがわれる。

(2) 課題がみえる問題

①の2のウは、日常的な話題について、必要な情報を聞き取る力をみる問題だが、正答率が5割を下回り、課題がみえる。自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握することができるようにしたい。②の3(2)は、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成する力をみる問題であるが、正答率が低かった。言語材料については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して、運用能力を高めていきたい。④の5は、まとまりのある文章を読んで概要を把握する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。物語を読む際は、特定の部分にのみとらわれたりすることなく、全体のあらすじを捉えるような学習も心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 英語を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点を捉えることができる

目的や場面、状況などに応じて、何を聞き取らなければならないか、あるいは読み取らなければならないかを判断し、「聞くこと」や「読むこと」を通して、必要な情報や大まかな内容、大切な部分を理解することができる。

(2) 英語で聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えや気持ちなどを英語で伝えることができる

「聞くこと」や「読むこと」を通して理解した情報や考えなどを基に、伝えるべき内容を既存の知識や体験などとも関連付けながら判断し、「話すこと」や「書くこと」を通して表現することができる。

(3) 授業者は、育成を目指す資質・能力を明確にし、身に付けた知識及び技能を生徒が選択しながら活用する学習活動の充実を

生徒の実態や学年・領域別の目標に基づき、各単元や各時間の明確な目標を設定し、生徒と共有したい。また、五つの領域の言語活動を通して、思考・判断・表現することを繰り返す授業づくりを図りたい。

26		1	
3	1	No.1	ア 83.2
3	1	No.2	イ 52.1
3	2	ア	郵便局 69.3
3	2	イ	駅 87.8
3	2	ウ	15 44.1
3	3	No.1	エ 75.2
3	3	No.2	ウ 91.6
5	4	Betty: The park in this photo is beautiful. Taku: I think so, too. It is (one of the most famous places in 84.9) Japan.	

問	備考
1	2 対話文に即した内容であれば正答とする。
2	3 (1) 全部できて正答とする。 (2) 全部できて正答とする。
3	2 対話文に即した内容であること。 3 *の正答については、順序は問わない。

2		18	
1	(1)	long	80.7
1	(2)	weather	57.1
1	(3)	half	17.2
2	(1)	エ	76.1
2	(2)	イ	66.0
3	(1)	X ア Y イ Z エ	65.5
3	(2)	X エ Y ウ Z ア	13.4

3		16	
1	X	フランス	50.8
1	Y	ドイツ	53.4
1	Z	スペイン	63.0
2	(例) ミラさんがイギリスで使っていた日本語の教科書。		81.5
3	*ウ		44.5
3	*オ		79.8

30		4	
3	1	エ	78.6
4	2	(C	53.4
4	3	(例) 町の行事で自分たちの紙芝居を上演すること。 84.5	
3	4	(1)	(例) They went to the school library. 68.9
3	4	(2)	(例) No, she didn't. 39.9
5	5	ウ → オ → イ → エ → ア 34.9	
4	6	I	(例) Why did you write 50.8) this folk tale in English?
4	6	II	One member of the club said that we could (例) make more people interested 7.1) in the town's folk tales.

5		10	
【評価の観点】			
(1) 内容			
○ 問われた内容に対して、自分の考えなどが明確に述べられているか。			
○ 自分の考えなどに対する理由や具体例が述べられているか。			
○ 4文以上の英文で、文と文のつながりなどに注意して書いているか。			
(2) 正確さ			
○ 文字や符号を識別し、語と語の区切りや語句の綴りなどに注意して、正しく書いているか。			
○ 文構造や文法事項などの知識を活用して、正しく書いているか。			
正答率 86.5			

問	備考
4	3 本文に即した内容であること。 4 本文に即した内容であること。 5 全部できて正答とする。 6 4語以上の英語で、本文及び対話文の文脈に合う内容であること。
5	(例) Summer is the best season. In summer, we have exciting festivals. Your friend can try our traditional dance with a dance group. He can also eat many kinds of local food.

〔注意〕 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

令和5年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況
(入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較

年 度		平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中学校卒業生数		9,798	9,613	9,112	9,324	9,159	
全 日 制	県 立	入学定員	6,840	6,720	6,720	6,600	6,480
		入学志願者等の数	6,426	6,203	5,786	5,554	5,343
		倍 率	0.94	0.92	0.86	0.84	0.82
		合格者等の数	6,000	5,829	5,400	5,261	5,024
		最終倍率	0.93	0.91	0.85	0.83	0.81
		充足率	87.7%	86.7%	80.4%	79.7%	77.5%
	市 立	入学定員	280	280	280	280	280
		入学志願者等の数	336	364	338	331	338
		倍 率	1.20	1.30	1.21	1.18	1.21
		合格者等の数	282	283	282	282	280
		最終倍率	1.20	1.30	1.21	1.18	1.20
		充足率	100.7%	101.1%	100.7%	100.7%	100.0%
	合 計	入学定員	7,120	7,000	7,000	6,880	6,760
		入学志願者等の数	6,762	6,567	6,124	5,885	5,681
		倍 率	0.95	0.94	0.87	0.86	0.84
		合格者等の数	6,282	6,112	5,682	5,543	5,304
		最終倍率	0.94	0.92	0.86	0.85	0.83
		充足率	88.2%	87.3%	81.2%	80.6%	78.5%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者等の数	124	127	103	130	133	
	倍 率	0.44	0.45	0.37	0.46	0.48	
	合格者等の数	122	123	102	125	130	
	最終倍率	0.44	0.45	0.37	0.45	0.47	
	充足率	43.6%	43.9%	36.4%	44.6%	46.4%	
総 計	入学定員	7,400	7,280	7,280	7,160	7,040	
	入学志願者等の数	6,886	6,694	6,227	6,015	5,814	
	倍 率	0.93	0.92	0.86	0.84	0.83	
	合格者等の数	6,404	6,235	5,784	5,668	5,434	
	最終倍率	0.92	0.91	0.84	0.83	0.81	
	充足率	86.5%	85.6%	79.5%	79.2%	77.2%	

(注)

- (1) 中学校卒業生数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年と義務教育学校9年生の生徒数の合計とする。
- (2) 入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 倍率＝入学志願者数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
- (6) 充足率＝合格者等の数÷入学定員×100

2 課程別・学科別

課程	区 分	入学定員		受検者等の数		合格者等の数		
	学 科	人 数	前年度比	人 数	最終倍率	人 数	充足率	
全 日 制	普通科	3,360	0	2,724	0.81	2,777	82.6%	
	専門教育を主とする学科	理 数	80	0	115	1.44	77	96.3%
		探 究	240	0	458	1.91	245	102.1%
		音 楽	40	0	18	0.45	18	45.0%
		体 育	80	0	99	1.24	81	101.3%
		農 業	400	0	205	0.51	205	51.3%
		工 業	1,120	0	798	0.71	796	71.1%
		商 業	560	0	552	0.99	496	88.6%
		水 産	40	▲ 40	18	0.45	17	42.5%
		家 庭	80	0	57	0.71	59	73.8%
		看 護	40	0	45	1.13	40	100.0%
		情 報	40	0	44	1.10	41	102.5%
		総合学科	680	▲ 80	465	0.68	452	66.5%
	合 計	6,760	▲ 120	5,598	0.83	5,304	78.5%	
定 時 制	普 通	200	0	93	0.47	93	46.5%	
	工 業	0	▲ 40	0	0.00	0	0.0%	
	総合学科	80	40	38	0.48	37	46.3%	
	合 計	280	0	131	0.47	130	46.4%	
全 定 合 計		7,040	▲ 120	5,729	0.81	5,434	77.2%	

(注)

- (1) 入学定員の増減は、全日制の水産科（加茂水産－1）、総合学科（天童－1、高島－1）、定時制の工業科（米沢工業－1）、総合学科（米沢工業＋1）の、各校学級数増減によるものである。
- (2) 受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 充足率＝合格者等の数÷入学定員×100

3 推薦入学者選抜実施状況（令和5年度）

区分	課程 学科	全 日 制												
		普通	専門教育を主とする学科											総合学科
			理数	探究	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	
入学定員		3,360	80	240	40	80	400	1,120	560	40	80	40	40	680
募集人員		62	—	—	20	64	104	284	116	12	24	12	10	172
志願者数		10	—	—	18	94	70	305	203	8	12	27	8	105
内定者数		10	—	—	18	66	70	258	131	8	12	12	8	97
志願倍率		0.16	—	—	0.90	1.47	0.67	1.07	1.75	0.67	0.50	2.25	0.80	0.61
充足率		16.1%	—	—	90.0%	103.1%	67.3%	90.8%	112.9%	66.7%	50.0%	100.0%	80.0%	56.4%

区分	全日制
	計
入学定員	6,760
募集人員	約 880
志願者数	860
内定者数	690
志願倍率	0.98
充足率	78.4%

区分	課程 学科	定 時 制			
		普通	工業	総合	計
入学定員		200	0	80	280
募集人員		—	—	—	—
志願者数		—	—	—	—
内定者数		—	—	—	—
志願倍率		—	—	—	—
充足率		—	—	—	—

区分	全日制・定時制 総 計
入学定員	7,040
募集人員	約 880
志願者数	860
内定者数	690
志願倍率	0.98
充足率	78.4%

<注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
 - (2) 充足率＝合格内定者数÷募集人員×100
 - (3) 推薦選抜で志願者があった学校
 全日制：28校（前年27校）
 65学科（前年65学科）
 - (4) 募集人員（実施要項より）
 普通科（小規模校）：30%以内
 理数科：20%程度（実施校なし）
 音楽科：50%程度
 体育科：80%程度
 職業に関する学科：30%以内
 総合学科：30%以内
- ※県外志願者受入れを実施する場合は50%以内
 ※募集人員の計は各校で定めた人員を単純に合計したものである
- (5) 連携型選抜は含まれていない